

令和4年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)」



“アダプテッド”定着プロジェクト ～障害児がいる体育をゆたかに～



アダプテッド体育＝“その人に合わせた”体育

障害のある子どもがいる学校体育の充実に貢献するため、“アダプテッド体育（アダプテッドと略しますね！）”の見方や実践例を紹介します。**アダプテッド**が日本の体育を豊かにしていけるようにがんばりたいと思います。

事業主体 筑波大学

プロジェクトメンバー

事業主体 筑波大学(代表 永田恭介) 主幹 筑波大学体育系(実施責任者 齊藤まゆみ)

実行委員会: 本事業を効果的に展開するために、各WGに諮問し、各WGから提案されたものを検討、また将来構想について検討しアジェンダを示す。それらをもとに報告書を作成し、スポーツ庁に提出する

議長 齊藤まゆみ(筑波大学・准教授)

委員 澤江 幸則(筑波大学・准教授)

委員 藤田 紀昭(日本福祉大学・教授)

委員 内田 匡輔(東海大学・教授)

委員 金山 千広(立命館大学・教授)

委員 吉岡尚美(東海大学・教授)

委員 吉永 武史(早稲田大学・准教授)

委員 阿部 崇(東京家政大学・准教授)

委員 村上 祐介(順天堂大学・助教)

委員 今城 遥(聖カトリナ大学・助教)

諮問
提案

定着研修会WG:

全国6ブロック(北海道・東北、関東、中部、関西、中四国、九州・沖縄)での定着研修会の実施

座長 村上 祐介(順天堂大学)
今城 遥(聖カトリナ大学)

教材コンテンツWG:

現場で効果的に使用できる教材コンテンツの企画・開発

座長 吉岡 尚美(東海大学)
阿部 崇(東京家政大学)

専門性の協力

日本体育学会アダプテッド・スポーツ科学専門領域
日本アダプテッド体育・スポーツ学会
日本障害者スポーツ協会 など

事業財政的支援

事業財政的支援

事務グループ: 事業を円滑に運用するために経費管理等を管理する

筑波大学事務局 (担当: 大石加代子)

小沼博義 茨城県立つくば特別支援学校
曾根裕二 大阪体育大学
中嶋実樹 弘前大学教育学部附属特別支援学校
萩原大河 兵庫県姫路市立水上小学校
日野克博 愛媛大学

天野和彦 筑波技術大学
重藤誠市郎 東海大学
牧 舞美 兵庫県立阪神昆陽特別支援学校
松原 豊 こども教育宝仙大学
宗田光博 埼玉県立大宮ろう学園
綿引清勝 いわき短期大学

本事業の概要

事業目的

最終目標

地域における通常の小中高等学校の体育現場において、障害者スポーツ指導の基本である「アダプテッド体育・スポーツ（以降、アダプテッド）」の視点の定着

1クール

2019年度－2021年度

成果

- ◎ 「定着研修会コアカリキュラム」の試案
- ◎ 定着研修会のプロトタイプおよびさまざまな研修会スタイルの実証
- ◎ 研修会用ガイドブックの作成と公開
- ◎ 現場志向型のコンテンツ構造をもったHPの構築

2クール

2022年度－2024年度：全国20都市で年間1回以上の研修会実施

2022年度目標

- ◎ 全国6地域において、定着研修会を年に1回実施し、地域条件における実施上の問題と課題を明らかにする
- ◎ 研修会内容にリンクしたガイドブックとHPの教材コンテンツが、実際に現場で活用することができるかを検証する

本事業の概要① 定着研修会WG

アダプテッドの視点の浸透に向けた研修会の全国展開

➤ 活動概要

昨年度の事業で研修会コアカリキュラムが様々な時間枠を想定した研修会で効果的であることが確認された。そこで今年度は、研修会の全国展開を進めていくために、全国の6か所で研修会を実施した(千葉県、愛媛県、愛媛県伊予地区、愛知県、長野県、青森県の6か所。研修会の受講者は合計300名以上で、アンケート回答者は232名)

➤ 研修会の内容

【講義】インクルーシブ体育の意義と理念

【演習】アダプテッド演習、インクルーシブ演習

➤ 評価方法

アダプテッド・センシティブ尺度(仮称AS尺度)による評価

➤ 考察および効果の検証

6か所全ての研修会において望ましい変化が確認された。特に、小学校教員の参加が多かった愛媛県や愛知県の研修会でも参加前後で望ましい変化がみられた。その地域の状況をよく把握している講師が担当することで、地域の特性や条件に適合した研修会を実施することができ、効果が期待できることが分かった。次年度はさらなる全国展開を目指す。

愛知県での研修会の事前事後の変化(n=59)

	事前	事後	T値
アダプテッドの理解度(4点満点)	1.91±0.81	3.85±0.49	16.42**
インクルーシブの理解度(4点満点)	2.87±0.97	3.70±0.66	7.65**
障害のポジティブイメージ(6点満点)	2.37±1.74	4.70±1.70	8.43**
障害者スポーツのポジティブイメージ(6点満点)	4.44±1.71	5.19±1.07	3.28**
アダプテッド体育の主体性(6点満点)	3.11±1.49	3.81±1.52	3.17**
アダプテッド体育への実践力(6点満点)	5.46±0.57	5.63±0.49	2.13*

** p<.01, * p<.05

本事業の概要② 教材コンテンツWG

アダプテッドを理解する導入としての役割を果たすガイドブックの更新

ガイドブックの更新

2021度作成したガイドブックについて、「実践編」の内容を更新した。視覚障害、聴覚障害、知的・発達障害、肢体不自由に、病弱・虚弱を加えた5カテゴリーとした。対象単元も拡充し、「体づくり運動」「器械運動」「走・跳の運動」「陸上運動」「水遊び・水泳運動」「ゲーム」「ボール運動」「表現運動」の領域で13種目を加えた。

ガイドブックの内容と整合させた実践例を紹介するHPの更新

HPコンテンツの拡充

ガイドブックをPDFでダウンロードできるように、HP上で公開した。また、ガイドブック「実践編」の更新に合わせて、HPのアダプテッド活動例紹介動画を拡充し、随時公開した。音声と字幕での説明をよりわかりやすく編集するとともに、全体のレイアウトをみやすく整理した。

教材コンテンツの広報と評価測定の取組み

1. HP紹介チラシの作成と配布

HPを紹介するチラシを作成し、各研修会や教育委員会を通じて教育関係者に配布した。チラシ、HPで教材コンテンツ(ガイドブック・HP)に関するWebアンケート調査への協力を依頼した。

今後の取組み

教材コンテンツの更なる拡充と評価測定調査方法の検討



本事業の概要

次年度課題

最終目標

地域における通常の小中高等学校の体育現場において、障害者スポーツ指導の基本である「アダプテッド体育・スポーツ（以降、アダプテッド）」の視点の定着

2クール

2022年度－2024年度：全国20都市で年間1回以上の研修会実施

2022年度の成果

- ◎ 全国6地域において定着研修会を実施、地域を熟知した講師であることが条件で、効果的な成果を得ることができた
- ◎ ガイドブックおよびHPにおいて実践的内容を充実した。実際に現場で活用できているかは、その検証方法の検証が必要とされた

2023年度に向けた課題

- ◎ 全国12地域において定着研修会を実施、地域を熟知した講師の選出方法および養成方法について検討する
- ◎ ガイドブックおよびHPが、実際に現場で活用できているかを検証する